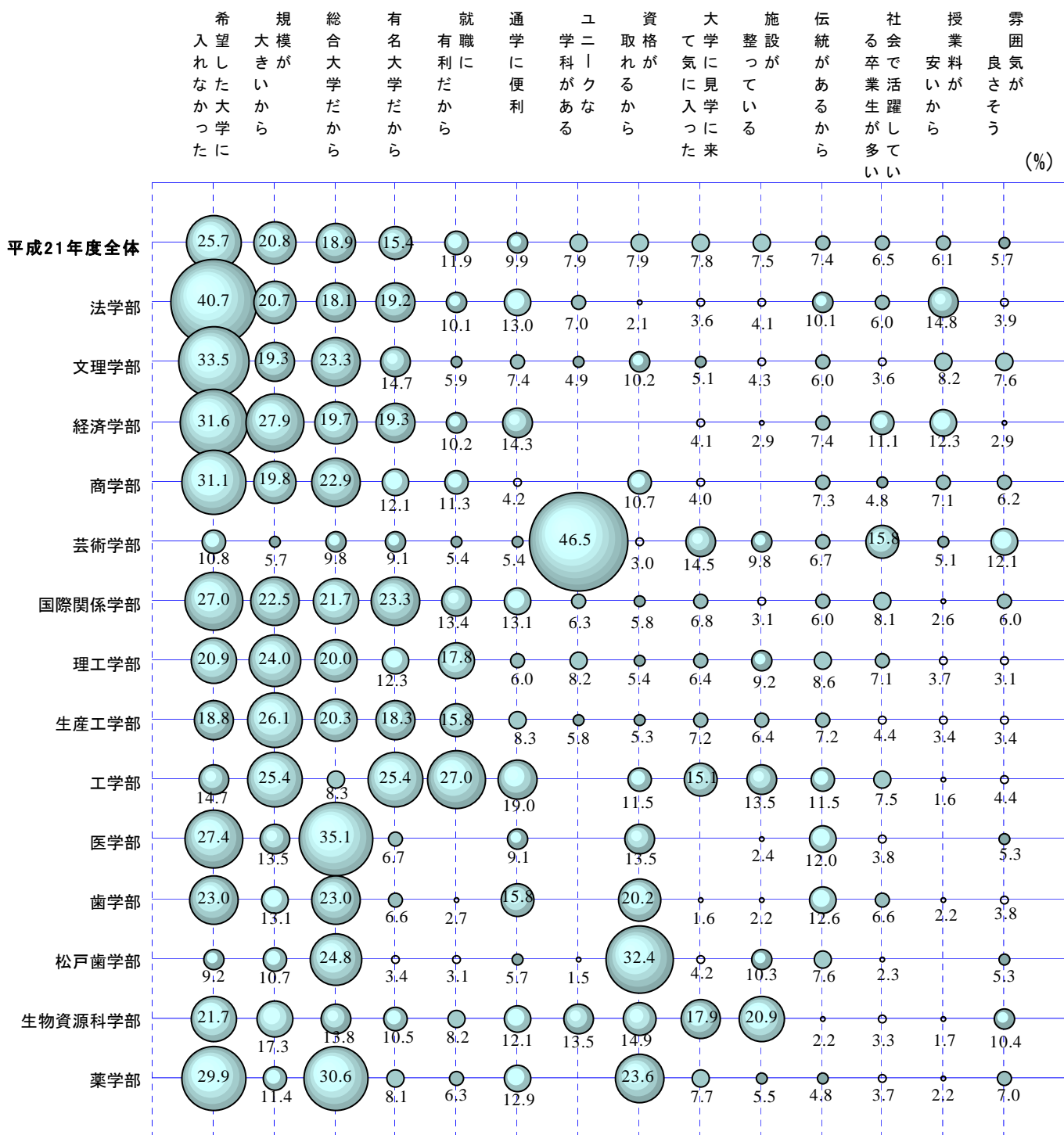


第7章 入学から現在までの意識と行動

1. 日大入学の理由

国内の私立で最大の総合大学であることや知名度が入学理由の上位。
 人文系学部では「希望した大学に入れなかったから」入学した学生の比率が高い傾向。
 芸術学部は「ユニークな学科があるから」が断トツ。

本大学に入学を決めた理由を、全体での高い順(出現比率5%以上)に並べたものが下図です。全体で見ると理由は分散していますが、中でも「希望した大学に入れなかった」が25.7%で最も高くなっています。次いで「規模が大きいから」(20.8%)、「総合大学だから」(18.9%)、「有名大学だから」(15.4%)と国内の私立大学で最大の総合大学であることや、知名度が入学理由の上位に挙げられています。学部別に見ると、法学部・文学部・経済学部・商学部では「希望大学に入れなかったから」という学生が31%以上と高くなっています。芸術学部では「ユニークな学科がある」(46.5%)、医学部と薬学部では「総合大学だから」(35.1%と30.6%)、松戸歯学部では「資格が取れるから」(32.4%)がそれぞれ入学理由のトップとなっています。

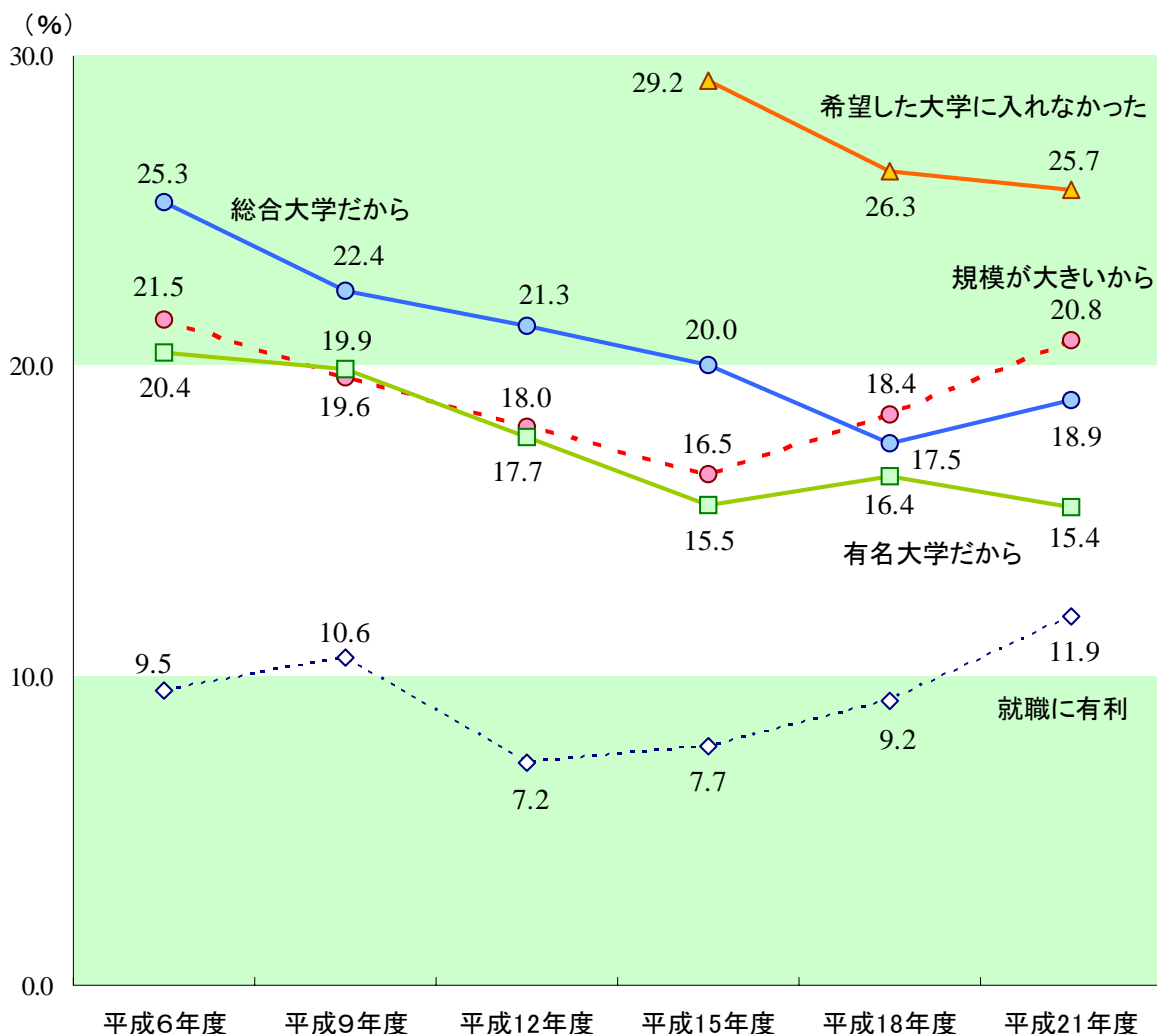


2.日大入学の理由—主なものの経年変化

「希望した大学に入れなかったから」入学した学生は6年前より3.5ポイント減少。
「規模が大きい」や「就職に有利」が増加傾向。大学全入時代と世相を反映？

本大学入学を決心した理由のうち上位5位までの経年変化を見ると、「希望した大学に入れなかったから」は調査項目に含まれた6年前の29.2%から3.5ポイント減少しています。工学部では14.5ポイントと減少幅が大きくなっています。不本意入学の減少は各学部の魅力が強まったことに加えて、大学全入時代に合わせて日大が推薦・AO入試枠を増やした結果、希望したところに入学できた学生が増加していることも関係していると思われます。他の理由については平成6年度から全般的に漸減傾向にありましたが、「規模が大きい」は6年前から4.3ポイント増、「総合大学」は3年前より1.4ポイント増加に転じています。「就職に有利」は平成12年度を底に増加傾向に転じ、9年間で4.7ポイント増となっています。経済不況や不安定な就職状況などの世相と関係しているものと思われます。

3年前と比較すると、「就職に有利」が工学部で12.7ポイントの大幅増、理工学部でも5.8ポイント増、「総合大学だから」は商学部で7.9ポイント増、「規模が大きいから」は国際関係学部で6.4ポイント増となっています。



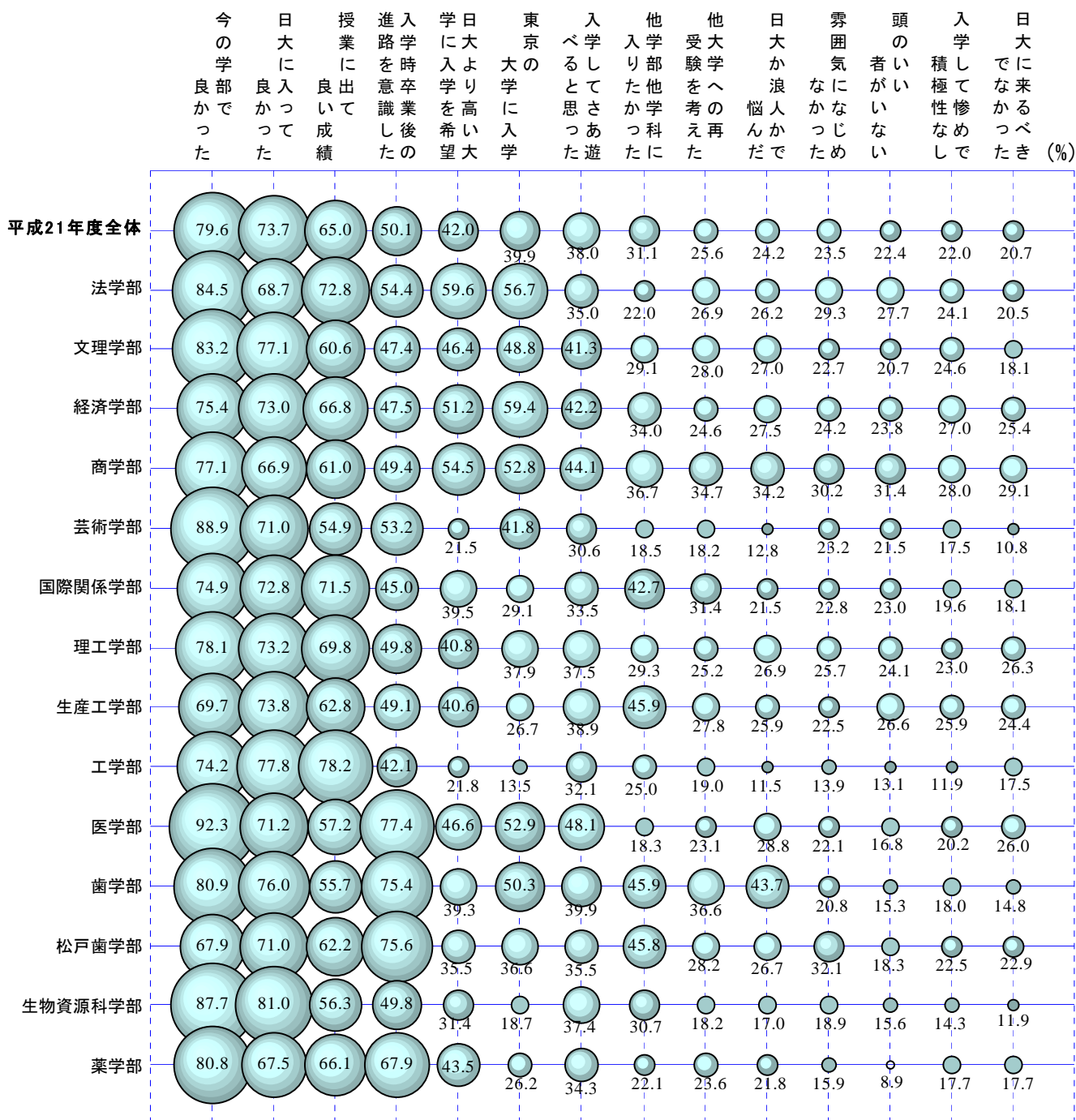
3.入学直後の意識

入学直後、自分の学部に入學したことに満足した学生は8割。

特に、芸術学部・医学部・生物資源科学部で高い。

日大入学が不本意だった学生は2割程度。

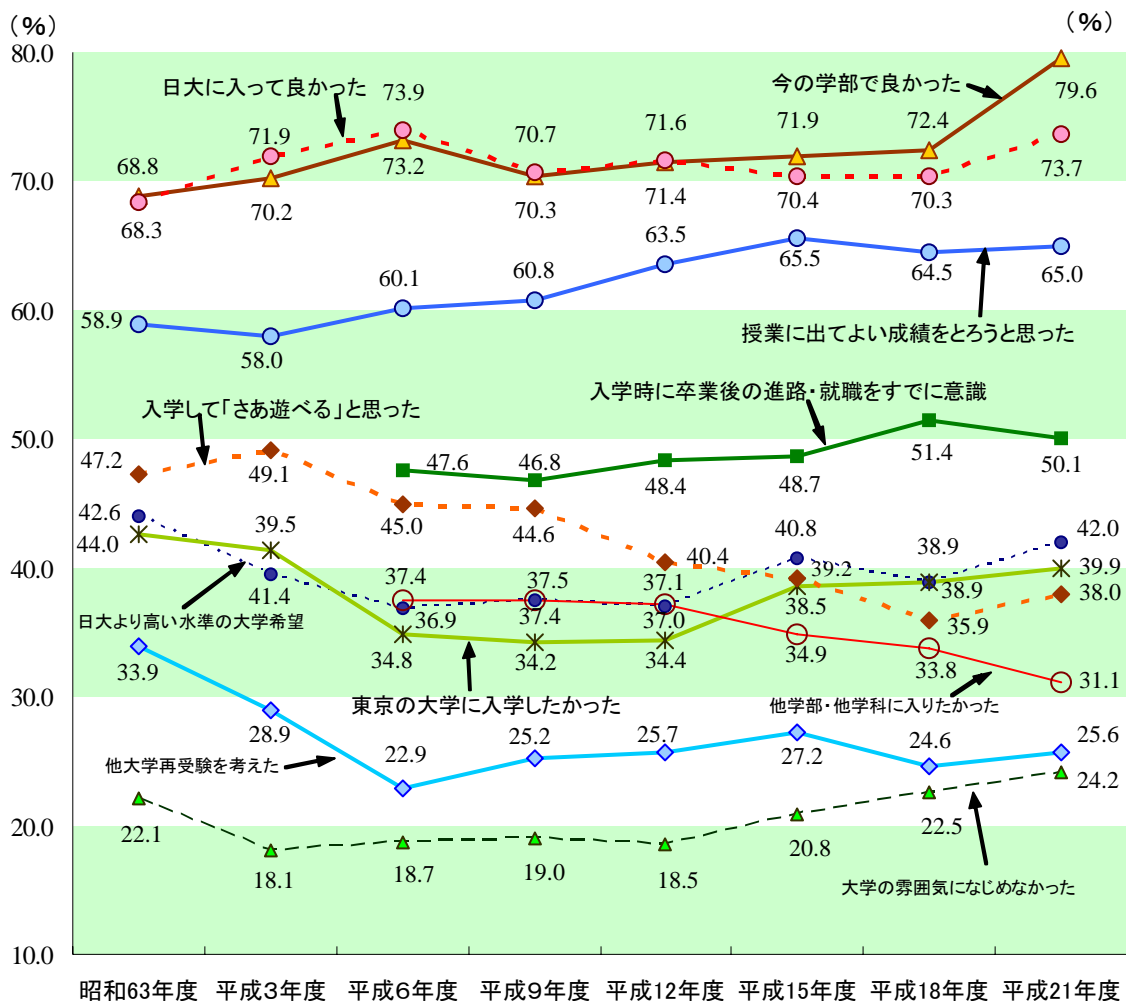
入学した直後の意識について全体での高い順に並べたものが下図です。全体では「今の学部で良かった」が79.6%、「日大に入って良かった」が73.7%で共に高くなっており、大半の学生が本学入学に関しては満足していることがわかります。「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」と積極的な勉学意識を抱いていた学生が65.0%と3番目に高くなっています。その一方で、「日大に来るべきでなかった」「悔んで積極的になれなかった」と入学に不本意な意識を抱いていた学生も約20%ずつとなっています。医学部・芸術学部・生物資源科学部では「今の学部で良かった」が90%前後と、入学に満足していた学生の比率が高くなっています。工学部の「授業に出て良い成績」が78.2%、医学・歯学部系の「入学時に卒業後の進路・就職をすでに意識」が75%以上と高い点が目立っています。



4.入学直後の意識—主なものの経年変化

学部や日大へ入学直後の満足比率は高まる傾向。3年前に比べ顕著。
「他学部に入りたかった」は減少，入学直後から勉学意識の高い学生が増加傾向。

入学直後の意識について昭和63年度（21年前）からの経年変化を見ると、「今の学部で良かった」は68.8%から79.6%と10.8ポイント増、「日大に入って良かった」は68.3%から73.7%と5.4ポイント増，一方「他の大学への再受験を考えた」が33.9%から25.6%と8.3ポイント減，さらに「他の学部・学科に入りたかった」も平成6年度（15年前）の37.4%から31.1%と6.3ポイント減となっており，入学直後の学部・日大への入学の満足比率は，高まる傾向にあると言えます。工学部と生物資源科学部では，学部への満足比率が高まる傾向が強く見られます（「今の学部で良かった」が平成3年から18～22ポイント増，かつ「他の学部・学科に入りたかった」が平成6年から17～28ポイント減）。さらに「できるだけ授業に出て良い成績をとろうと思った」学生が21年間に6.1ポイント増加，一方「さあ遊べるといった」学生は同期間に9.2ポイント減少しており，入学直後から勉学意識の高い学生が増加していることがわかります。この傾向が濃く表われている学部は，法学部・理学部・歯学部です（両項目で10ポイント以上増減）。

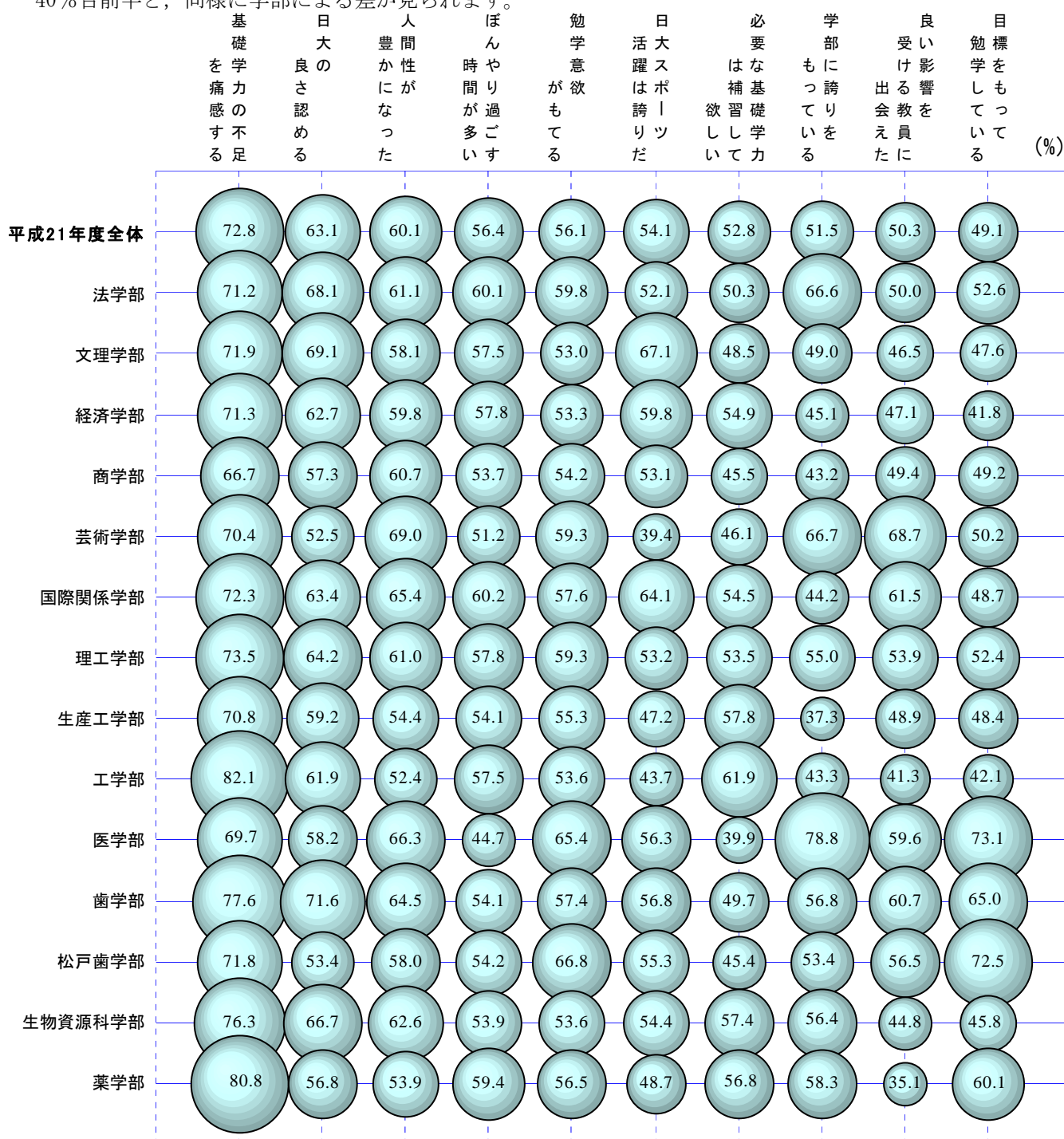


5.現在の意識・行動(上位10項目)

現在「基礎学力の不足を痛感」している学生が72.8%。補習の要望も52.8%。「学部に誇りをもっている」は学部間に差。医・歯学系学部は「目標を持って勉学」が高い。

学生の現在の意識について全体での高い順に上位10項目を表示したものが下図です。

全体では「基礎学力の不足を痛感する」が72.8%でトップとなっています。次いで「日大の良さを認める」(63.1%)、「人間性が豊かになった」(60.1%)、「ぼんやり過ごす時間が多い」(56.4%)の順で続き、「勉学意欲がもてる」(56.1%)、「日大スポーツ活躍は誇りだ」(54.1%)など33項目中9項目が過半数となっています。「学部に誇りをもっている」学生は、医学部・芸術学部・法学部・薬学部の順に高く(66.6%以上)、生産工学部・商学部・工学部の順に低く(43.3%以下)、学部により大きな差が見られます。「目標をもって勉学している」学生は医学部・歯学部系で65~73%、経済学部と工学部で40%台前半と、同様に学部による差が見られます。



5.現在の意識・行動(中位10項目)

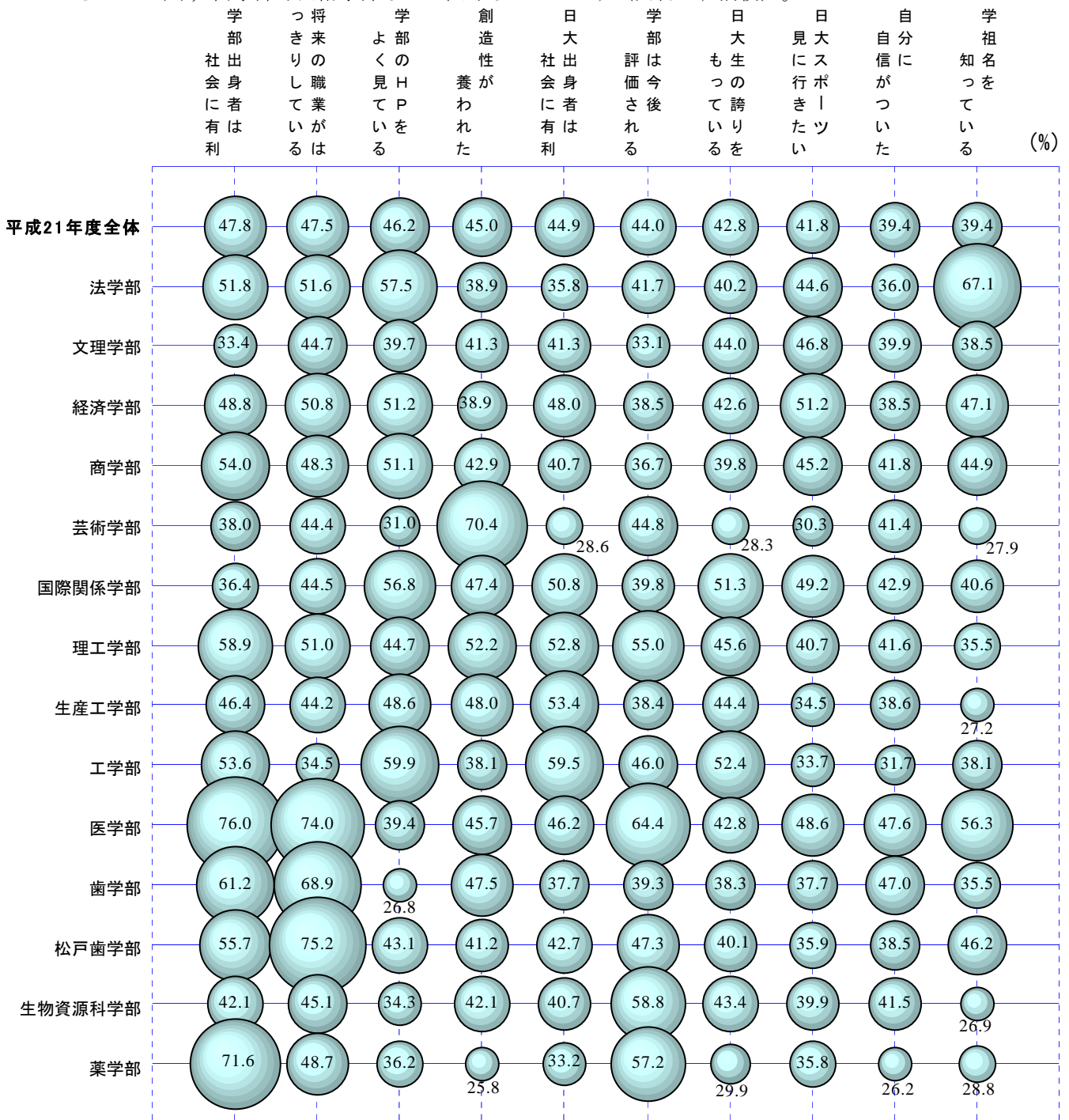
「学部出身者は社会に出てから有利」が医学部と薬学部で70%台と高い。

芸術学部は「創造性が養われた」が70.4%、

医学部・生物資源学部・薬学部・理工学部は「学部は今後評価される」が過半数。

学生の現在の意識について上位11～20位までを表示したものが下図です。

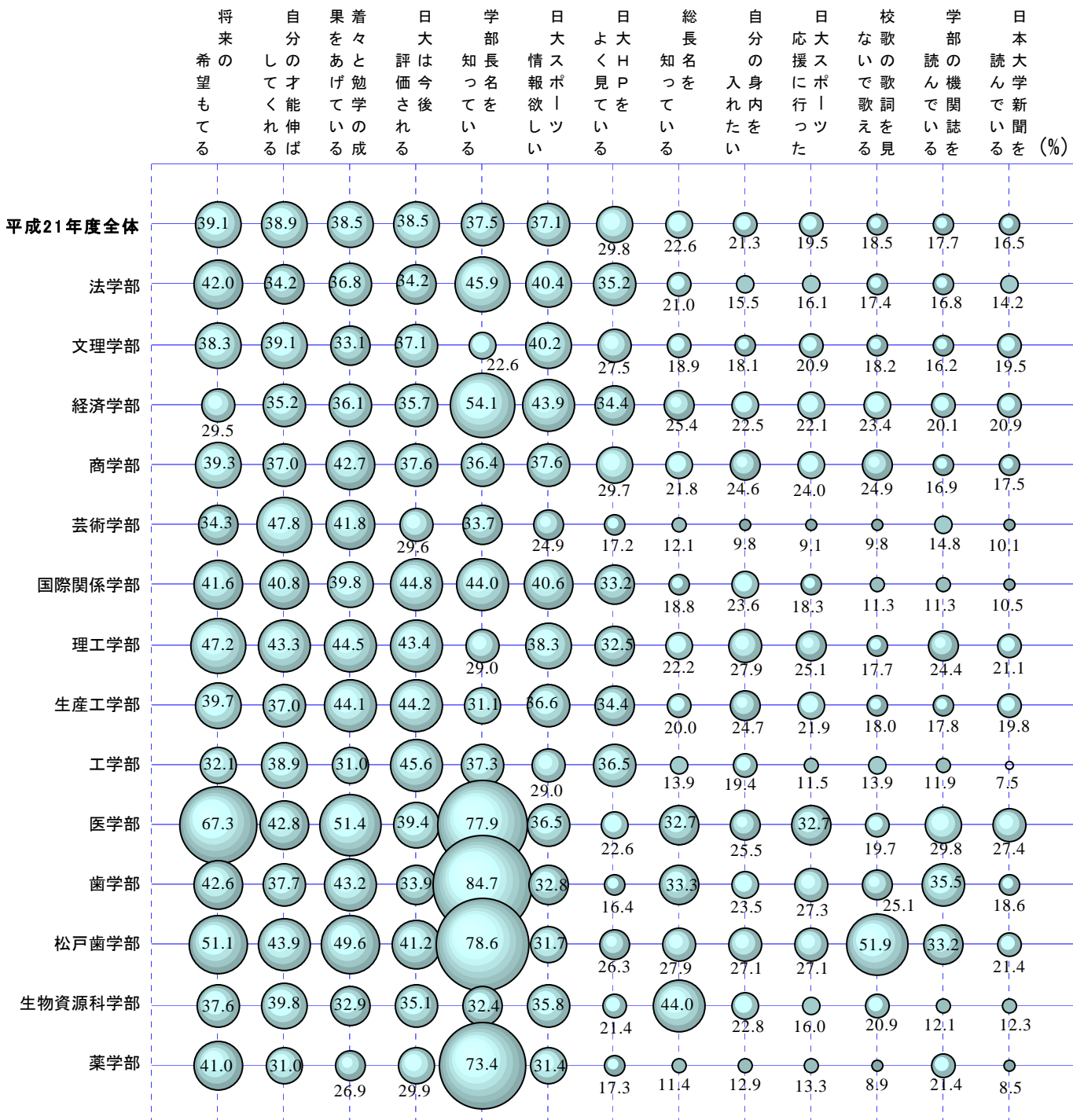
「学部出身者は社会に出てから有利」は全体の47.8%に対し、医学部(76.0%)と薬学部(71.6%)で高くなっています。また、医学部・歯学部系では「将来の職業がはっきりしている」という学生も70%前後と高くなっています。「学部は今後評価される」は医学部・生物資源科学部・薬学部・理工学部で55%以上と高くなっています。芸術学部では「創造性が養われた」(70.4%)、工学部では「日大出身者は社会に出てから有利」(59.5%)「日大生の誇りもっている」(52.4%)、法学部で「学祖名を知っている」(67.1%)が高くなっています。学部のホームページの閲覧状況は、工学部で高く(よく見ているが59.9%)、歯学部や芸術学部などで低くなっています(同約30%前後)。



5.現在の意識・行動(下位13項目)

「将来の希望がもてる」学生は医学部で70%弱，経済・工学部で30%前後と学部間差が大。日大全体の情報については新聞からネットにシフト化。

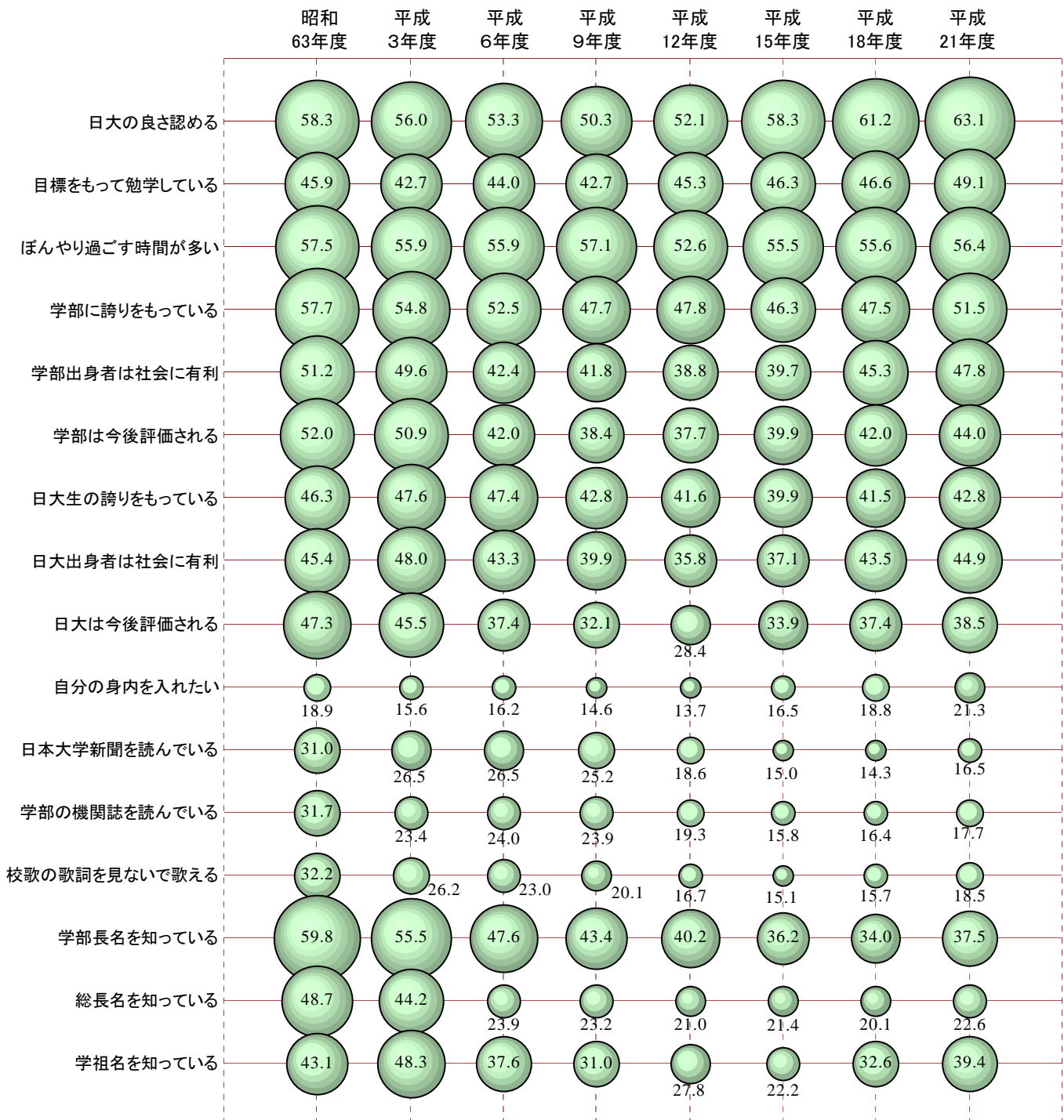
学生の現在の意識について21～33位までを表示したものが下図です。本大学についての情報に関する項目が多く見られます。「将来の希望がもてる」学生は全体で39.1%となっています。医学部で67.3%と突出していますが，経済学部・工学部では30%前後と低く学部間に差が見られます。「学部長名を知っている」は全体では37.5%ですが，医・歯・薬学部系で70～80%台と非常に高くなっています。「日大のホームページをよく見ている」学生は29.8%（平成18年度は23.5%），「日本大学新聞」をよく読んでいる学生は33項目中最低の16.5%（同14.3%）となっており，日大全体に関して情報活字媒体離れとネット情報へのシフト化傾向が進んでいることがうかがえます。



6.現在の意識・行動の経年変化

「日大の良さを認める」学生は12年前から増加，帰属意識が再び高まる傾向。
 「目標をもって勉学している」学生も「ぼんやり過ごす時間が多い」学生も漸増傾向。

第1回調査（昭和63年）から連続している調査項目について，現在の意識・行動を経年変化で見ると，「日大の良さを認める」は，平成9年度の50.3%を底に年々増加し12年間で12.8ポイント増となっています。同様に「目標をもって勉学している」学生も平成9年度の42.7%から6.4ポイント増加していますが，「ぼんやり過ごす時間が多い」学生も平成12年度の52.6%より3.8ポイントと増加傾向にあり，勉学意欲の差が拡大傾向にあるとも考えられます。「日大出身者は社会に有利」「日大は今後評価される」「自分の身内を入れたい」などの意識は漸減傾向にありましたが，いずれも平成12年度を底に増加に転じており，日大帰属意識は高まる傾向が見られます。また，「学部出身者は社会に有利」「学部は今後評価される」など学部帰属意識も同様の傾向が表れています。



6.現在の意識・行動の経年変化(3年前との比較)

3年前と比較して、学部・日大のホームページをよく見ている学生が大幅に増加。
理工学部は「創造性が養われた」「着々と勉学の成果をあげている」など13項目で増加。

現在の意識・行動についての回答を、前回(3年前)と比較したものが下表です。全体では「学部のホームページをよく見ている」学生が7.1%、「日大のホームページをよく見ている」学生が6.3%増加しています。法学部・理工学部・薬学部では両項目とも10ポイント以上増加しており、学部の情報媒体がネットに移行する傾向が顕著に見られます。また、法学部創設120周年に当たる本年度、「学祖名(山田顕義先生)を知っている」が6.8ポイント増加と2番目に増加ポイントが高くなっています。一方、日大のスポーツに関連した項目において、多くの学部で意識が低下する傾向が見られ、「日大スポーツ情報が欲しい」学生は全体で3年間で4.1%減少しています。

学部別に10ポイント以上増加した項目を見ると、理工学部で「創造性が養われた」「自分に自信がついた」「着々と勉学の成果をあげている」など13項目と多く、歯学部では「総長名を知っている」「学部長名を知っている」など6項目で10ポイント以上、法学・商学・工学・医学・薬学部で3つの項目が10ポイント以上増加しました。また、「総長名を知っている」は生物資源科学部で31.7ポイントも増加しており、最大の増加率となっています。

現在の意識・行動の前回(3年前)との比較	白字 ……10ポイント以上増加										…10ポイント以上減少				<増減ポイント>		
	H21年度	前回差	法	文理	経済	商	芸術	国際	理工	生産工	工	医	歯	松戸歯		生物資源	薬
日大の良さ認める	63.1%	1.9				-7.7	6.1	7.2	8.4				10.9				
勉学意欲がもてる	56.1%	5.4		5.2	5.0	5.9		7.6	10.3	6.0	6.0	7.9		7.8			
将来の希望もてる	39.1%	0.7			-7.5			6.1	11.6			12.7					-5.7
自分に自信がついた	39.4%	4.5			6.0			7.4	12.4								
人間性が豊かになった	60.1%	1.1		-6.7					10.8	-5.4		9.3	5.3				
着々と勉学の成果をあげている	38.5%	5.8	5.5			8.9	5.6	12.9	13.0	6.1		8.9					
創造性が養われた	45.0%	4.4	6.0					11.6	13.4			5.1	10.6				
基礎学力の不足を痛感する	72.8%	0.5				7.8					8.8	6.7		-5.3			
必要な基礎学力は補習して欲しい	52.8%	-1.2						-8.7									
目標をもって勉学している	49.1%	2.5					-7.6	7.8	9.6	5.3			-9.3				-5.8
将来の職業ははっきりしている	47.5%	0.6					-6.5		7.9		-7.2						-8.1
ぼんやり過ごす時間が多い	56.4%	0.8										6.0					7.9
良い影響を受ける教員に出会えた	50.3%	3.4				11.1		9.9	8.1		8.4	6.9		6.7		-5.2	
学部に誇りをもっている	51.5%	4.0		12.9				9.5	8.8			6.3	-5.8				-8.1
学部出身者は社会に有利	47.8%	2.5				9.4			5.4	5.2		6.4					
学部は今後評価される	44.0%	2							10.0			6.4	-6.3				-8.3
日大生の誇りをもっている	42.8%	1.3					-8.8		10.9		10.1						
日大出身者は社会に有利	44.9%	1.4	-5.7						9.7		11.6	5.6					
日大は今後評価される	38.5%	1.1						8.0	6.5								
自分の身内を入れたい	21.3%	2.5							9.2				-6.1				
自分の才能伸ばしてくれる	38.9%	2.8	-5.4		5.4	6.6		7.7	5.4		5.0						10.0
日大スポーツ活躍は誇りだ	54.1%	-2.6	-11.8			-11.1						-5.5	5.8		-5.0	-8.1	
日大スポーツ応援に行った	19.5%	2.2				6.9		-19.3	11.0			10.0		8.6			
日大スポーツ情報欲しい	37.1%	-4.1	-7.2	-9.9	-6.1	-7.8	-5.9	-12.6						5.6		-5.2	
日大スポーツ見に行きたい	41.8%	-2.5	-8.8	-5.4		-6.1		-5.6	5.6			11.4	6.6	6.6		-7.5	
日本大学新聞を読んでいる	16.5%	2.2						-5.2	11.0	7.4		5.2					
学部の機関誌を読んでいる	17.7%	1.3	-6.2			7.7	-7.1		8.4	6.4				6.3			
校歌の歌詞を見ないで歌える	18.5%	2.8	5.6			12.8		-8.3	8.9			6.7	10.1				
日大HPをよく見ている	29.8%	6.3	11.9		8.7				11.7	9.1			13.4				10.7
学部のHPをよく見ている	46.2%	7.1	15.0		13.5			9.0	12.3	6.6	5.2	-6.0	6.4	9.8			17.0
学部長名を知っている	37.5%	3.5	11.7	5.6						5.0	6.7		11.4				8.3
総長名を知っている	22.6%	2.5							-14.1				15.8	7.0	31.7		-8.7
学祖名を知っている	39.4%	6.8		9.1	7.0	10.7			13.6	5.9	13.0		10.3	16.9			7.8

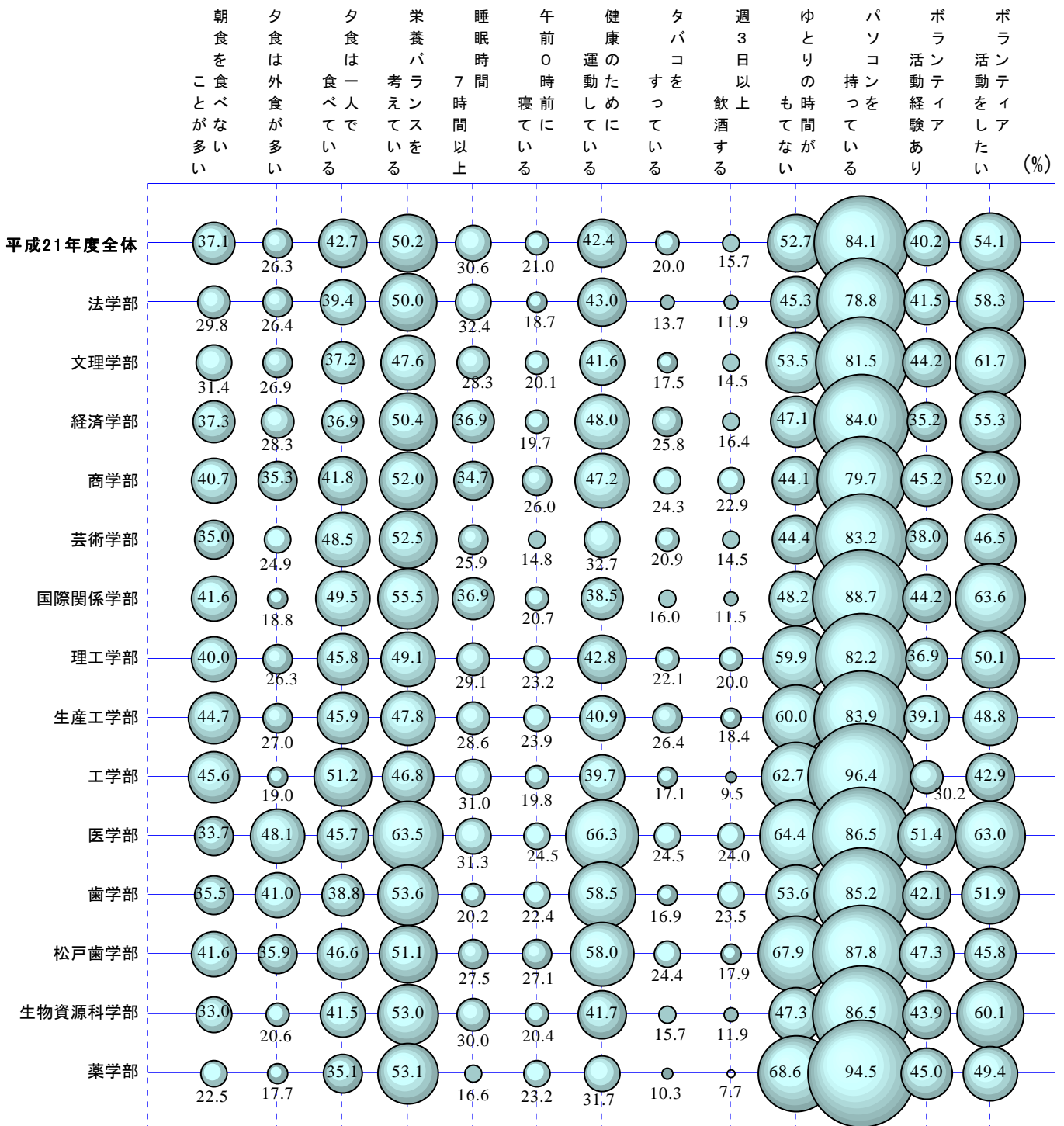
(注)学部別は、増減が5ポイント未満は非表示。

7.日常生活および個人行動について

夜型・睡眠時間の少ない学生が多い。喫煙率は日本の成人喫煙率と同水準。
 勉学などで「ゆとりの時間がもてない」が52.7%。一方「ボランティア活動」希望も過半数。

食事面を全体で見ると、「朝食を食べないことが多い」が37.1%、「夕食は外食が多い」が26.3%、「栄養のバランスを考えている」が50.2%となっています。睡眠に関しては「7時間以上」が30.6%、「午前0時前に寝ている」が21.0%と夜型で睡眠時間の少ない学生が多いようです。キャンパス内の禁煙が進んでいますが、喫煙率は20.0%で日本人の成人喫煙率（21.8%）と同水準（平成20年度厚生労働省国民健康栄養調査）となっています。勉学などのために「ゆとりの時間がもてない」学生は52.7%と過半数となっており、医学部・歯学部・薬学部系や理工学系の学部で高くなっています。

「ボランティア経験」は40.2%となっています。「ボランティア活動をしたい」学生は54.1%と過半数を占め、国際関係学部・医学部・文理学部・生物資源科学部で60%を超え高くなっています。



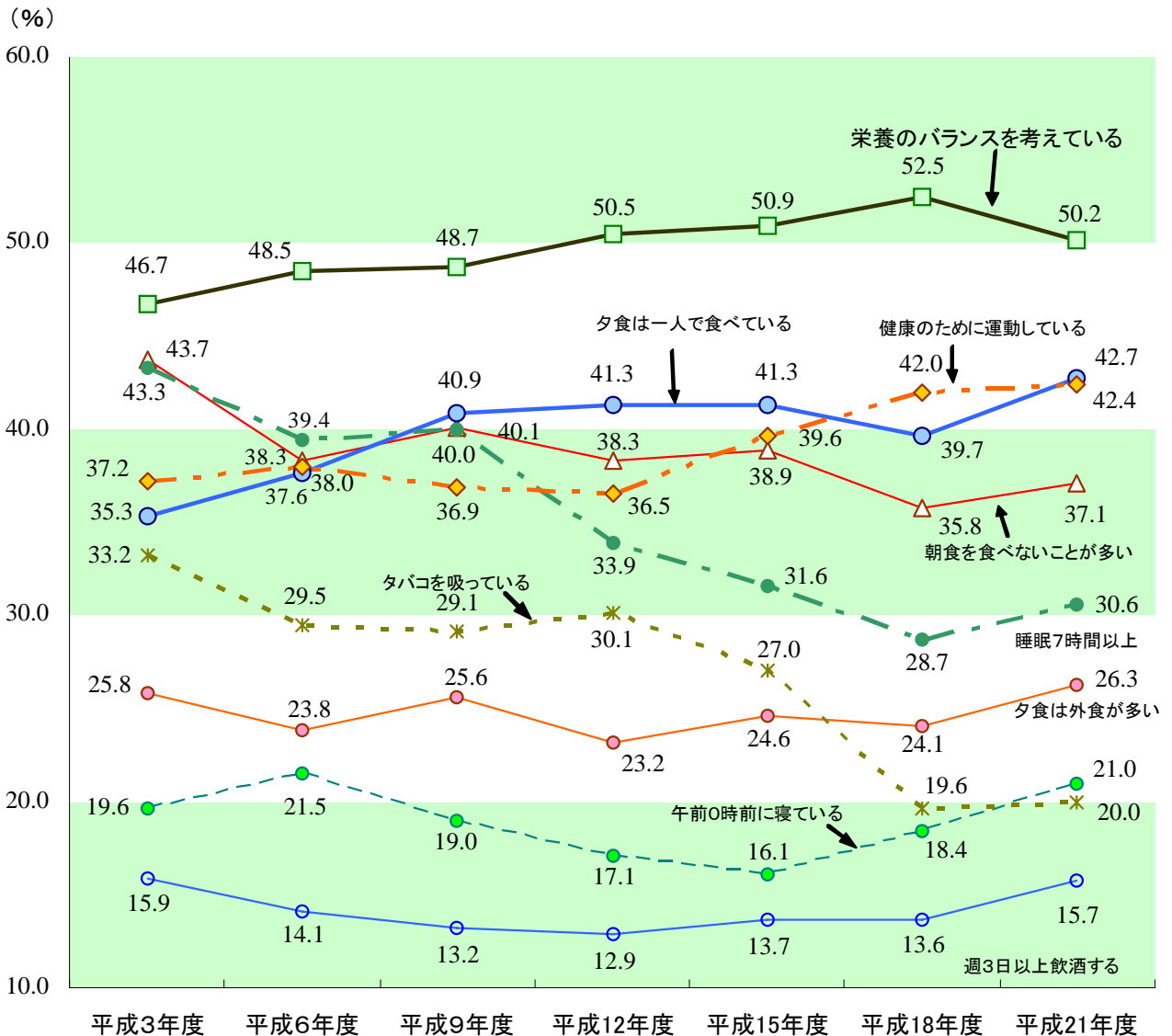
8.日常生活についての経年変化

運動や睡眠に関してやや改善傾向。食事や飲酒・喫煙率はやや増加。
健康面に注意する学生としない学生の二極分化傾向？

学生の日常生活について平成3年度からの経年変化を見ると、「栄養のバランスを考えている」学生は年々増加傾向が見られていましたが、3年前の52.5%から2.3ポイント減少しています。「健康のために運動している」は9年前、「睡眠7時間以上」は3年前、「午前0時前に寝る」は6年前から増加が見られ、近年は運動と睡眠に関して改善傾向が見られます。

しかし、一方で「朝食は食べないことが多い」「夕食は外食が多い」「タバコを吸っている」「週3日以上飲酒する」学生は3年前と比較すると0.4～2.2ポイントとわずかずつ増加しています。食事、運動などの健康面に注意している学生としていない学生の二極分化傾向が表れてきているのではないかと考えられます。

学部別に平成3年度から18年間で減少傾向の強い生活行動を見ると、文理学部・薬学部・経済学部・商学部では「睡眠時間7時間以上」が約18～22ポイント減，歯学部・工学部・松戸歯学部・生物資源科学部では「タバコを吸っている」が約19～23ポイントの減と目立っています。



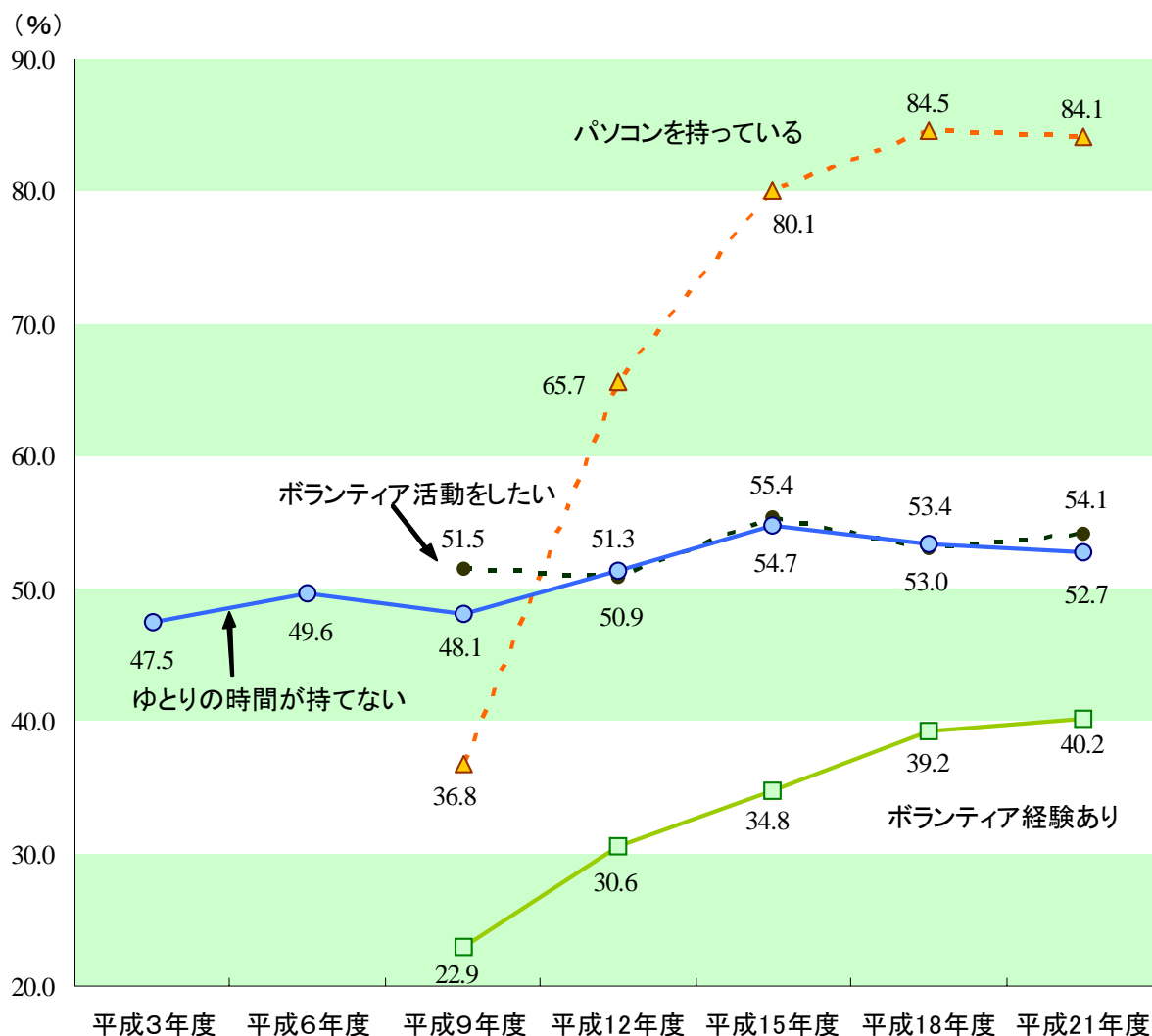
9.ゆとり・余裕についての経年変化

ゆとりの時間が持てない学生は6年前よりやや減少傾向。学部によって増減やその時期に差。
パソコンの所有率は頭打ち。ボランティア経験率は年々高まる傾向。

ゆとり・余裕面での経年変化を見ると、「ゆとりの時間が持てない」学生が平成3年度から年々増加し平成15年度の12年間で7.2ポイント増加しましたが、その後減少に転じています（6年前より2.0ポイント減）。学部別に見ると、医学部・経済学部・工学部は平成3年度から（いずれも約11～14ポイント以上増加）、国際関係学部と文理学部は平成6年度から（共に約14ポイント増加）、芸術学部では平成12年度から（約11ポイント増）増加傾向が見られます。一方、歯学部では平成6年度から約25ポイントの大幅な減少となっており、学部によって「ゆとり」の増減やその時期に差が見られます。

パソコンの所有率は、平成9年度から9年間に47.7ポイントと急激に伸び平成18年度は84.5%に達しましたが平成21年度は84.1%とわずかに減少しています。

ボランティア経験も平成12年度の22.9%から年々増加し、17.3ポイント増の40.2%になっており、「ボランティア活動をしたい」学生も過半数を超えていることから、ボランティアに対する関心の高さが伺えます。



11.安心できる大学環境の経年変化

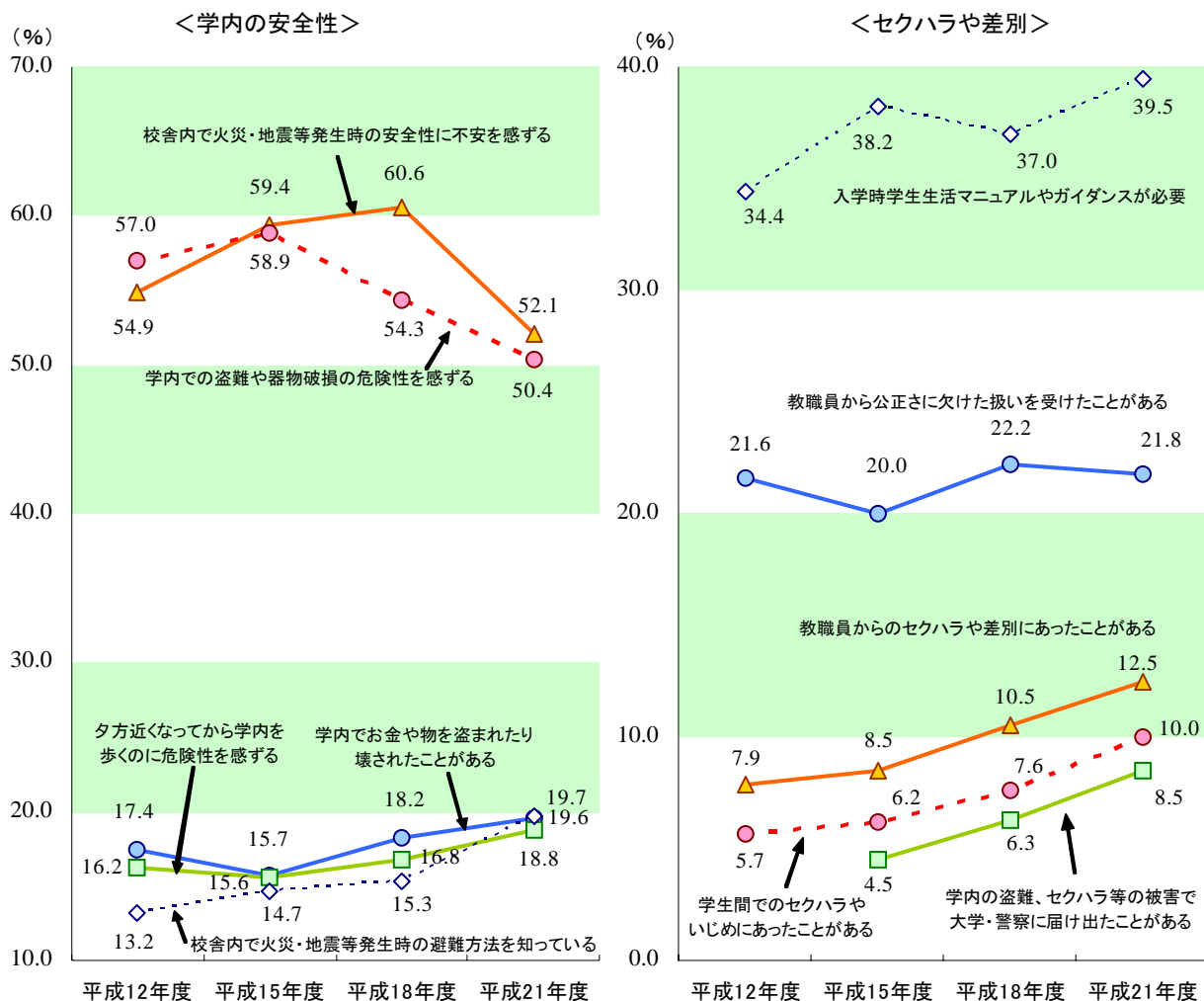
校舎内での災害発生時の安全性に不安を感じる学生は減少に転じ、リニューアル効果鮮明。

「学内での盗難・破損の危険性を感じる」は減少の一方で経験者は増加。

セクハラや差別問題に対する大学側の取り組みは、効果がまだ十分表れていない。

学内の安全性について、この項目が調査に含められた平成12年度からの経年変化を見ると、「校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じる」学生は増加傾向にありましたが、3年前から減少に転じ、8.5ポイント減となっています。薬学部・文理学部・商学部で3年前と比較して大きく減少しています（約15～18ポイント減）。「避難方法を知っている学生」は6.4ポイント増となっており、新校舎の建設が進んだことや、災害時の避難方法についての指導の効果が少しずつ表れていると考えることができます。また、「学内での盗難や器物破損の危険性を感じる」学生は6年前より減少傾向である一方、盗難・破損経験者は2割近くに増加しており、学生の実際感覚と現実とに多少の差があるようです。

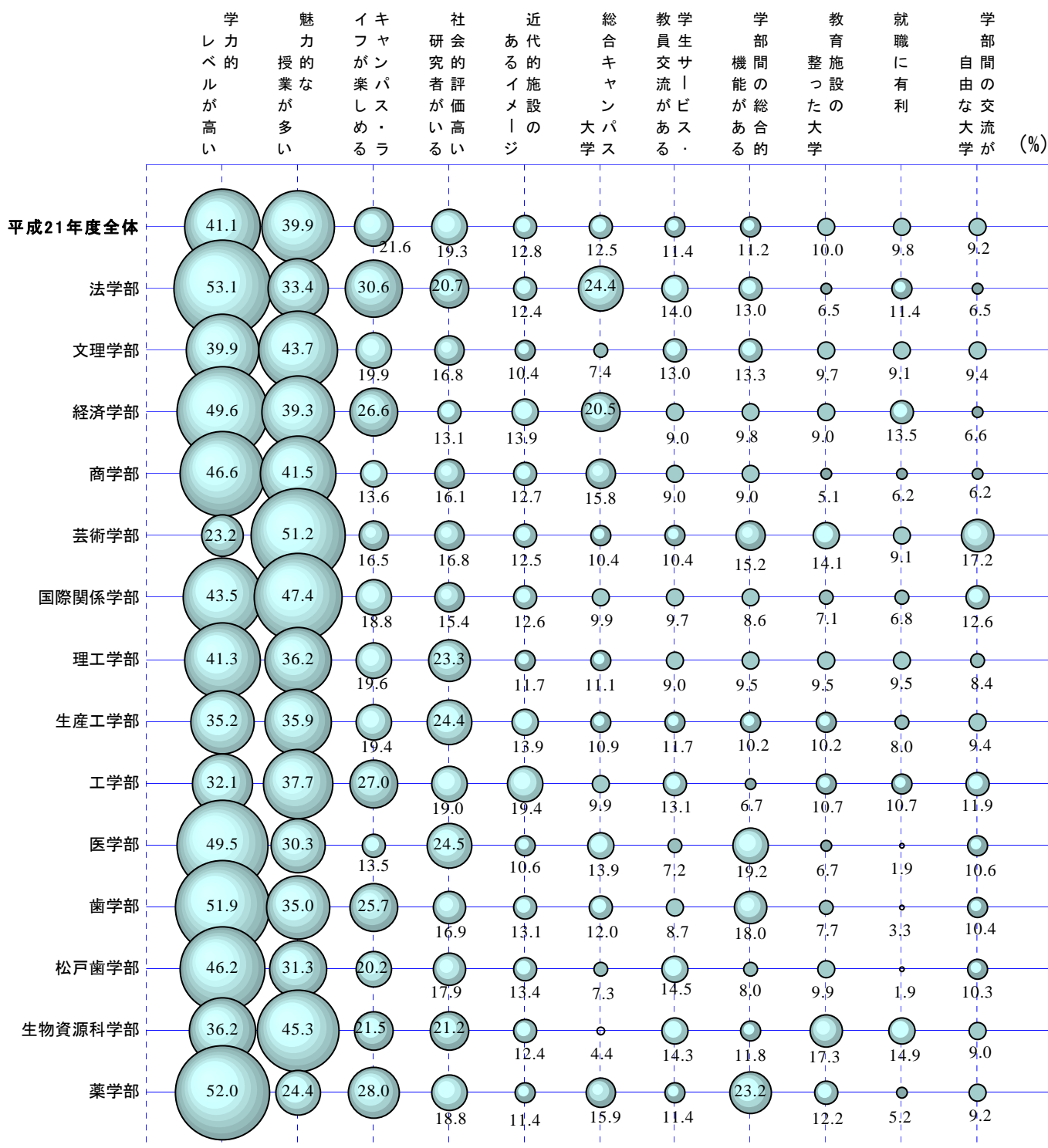
セクハラや差別についてみると、「教員から」が9年間に4.6ポイント増、「学生間」が4.3ポイント増と増加傾向にあります。日大では平成13年度から「日本大学セクシュアル・ハラスメント等人権侵害防止ガイドライン」を制定し、この問題に積極的に取り組んでいるものの、効果がまだ十分表れていないように思われます。



12.日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なこと

「学力レベルが高い」，次いで「魅力的な授業が多い」が日大の魅力アップに有効と実感。キャンパス・ライフの楽しみや施設面の充実が『魅力ある誇れる大学』には副次的。

日大を魅力ある大学にするために特に重要ことについての学生の回答を全体で見ると，「学力レベルが高い」が41.1%で最も高く，「魅力的な授業が多い」が39.9%で2番目となっています。「キャンパス・ライフが楽しめる」「社会的評価の高い研究者がいる」が20%前後，「近代的施設のあるイメージ」が12.8%で続いており，学生生活を楽しめることや施設面より，『勉強面の充実』が魅力ある誇れる大学になるために重要と考える学生が多いことがわかります。



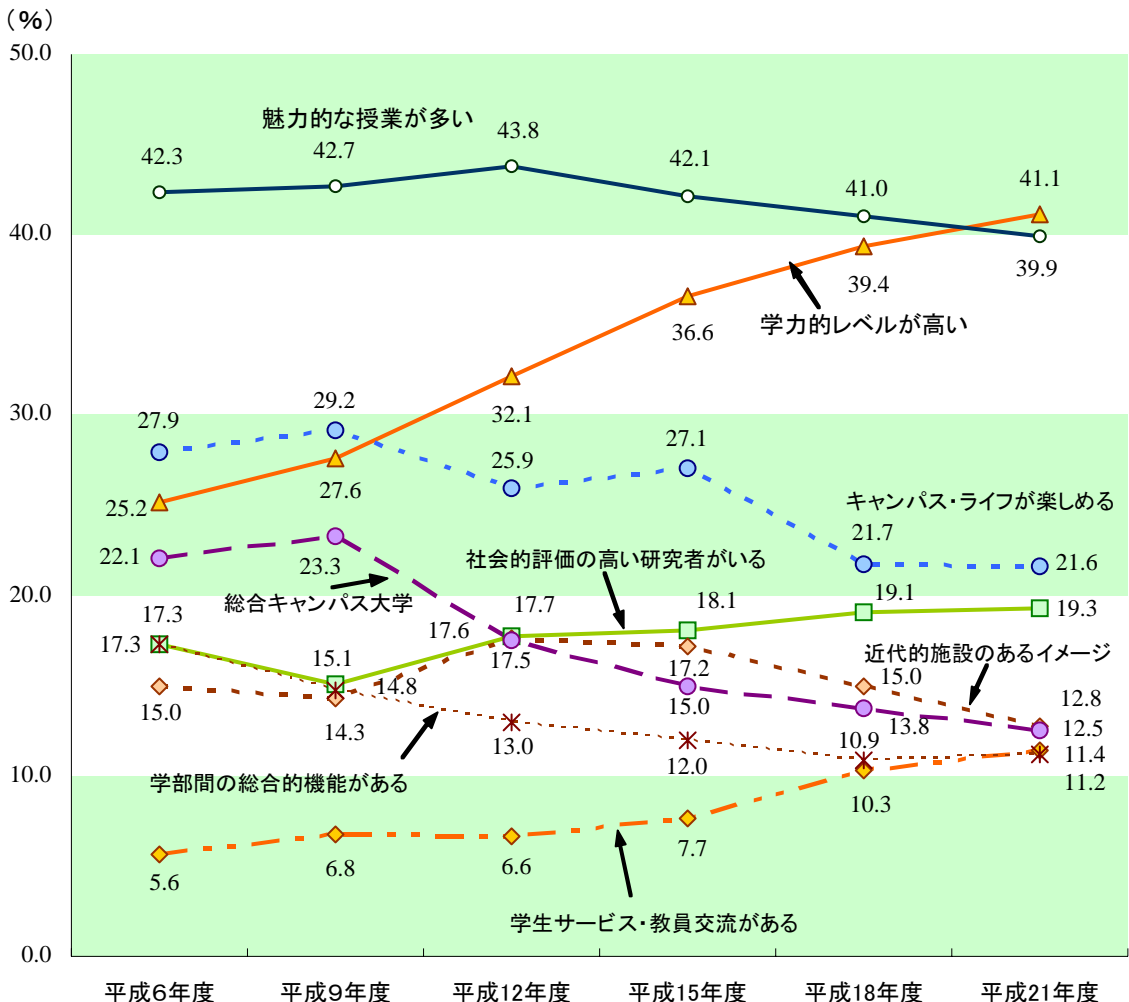
13. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なことの経年変化

魅力ある誇れる大学づくりには『勉学面での充実』が重要とする傾向は年々強まる。特に、「学力的にレベルが高い」ことが急上昇。大学全入時代を迎え、学生の提言！

日大を魅力ある誇れる大学にするために特に重要なことについての学生の回答を平成6年度から経年変化で見ると、「学力的にレベルが高い」は15年間で15.9ポイントと大幅な増加となり、今年度「魅力的な授業が多い」を逆転しトップとなっています。「キャンパス・ライフが楽しめる」と「総合キャンパス大学」は漸減傾向にあります。「社会的評価の高い研究者がいる」は平成9年度から12年間で4.2ポイント増加しています。勉学面での充実を図っていくことが重要だとする傾向は、年々強まっていく傾向にあります。

学部別に見ると、歯学部・経済学部・法学部・松戸歯学部・薬学部の学生は「学力レベル」重視傾向が強く見られます（15年間で約21～24ポイント増）。一方、国際関係学部では「外国人を受け入れたり外国への留学機会が多い国際大学」（44.0%から15年間で25.7ポイント減）で減少幅が大きくなっていますが、これは同様の特色を持った大学が増加してきたためと考えられます。また、商学部・工学系学部や医学・歯学・薬学系学部では「総合キャンパス大学」の減少傾向が目立っています。

厳しい時代を生き抜くための学力やノウハウを身に付けるため、「学力レベルの高さ」を希求する学生の増加傾向はさらに強まっていくことが考えられます。大学全入時代を迎えて大学間の競争が激化して行く中、日大が魅力を高めて行くために必要な施策として、『勉学面での充実を重視』は学生からの提言と言えるでしょう。



入学時のモチベーションが成果として表れているか

学生としての意欲が入学直後から現在に至ってどう変化しているかを見ます。

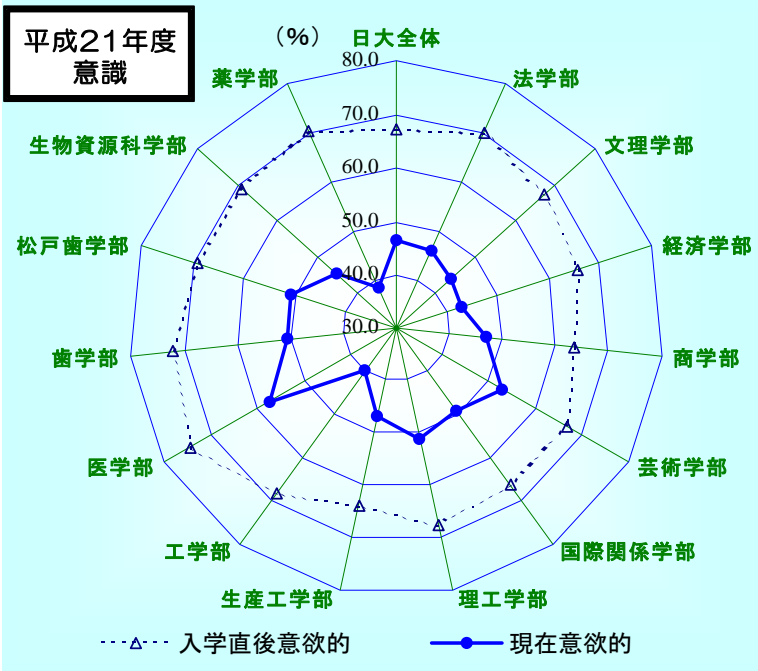
学生のモチベーション

左のグラフは、入学直後の学生のモチベーションが現在に至るまでにどう変化しているか、が示されています。グラフの中の外側の線が入学直後に勉学などの学生生活に対してどれほどの学生が意欲的であるかを示しています。一方、内側は入学後から現在に至るまでの意欲的な学生の比率を示しています。

全ての学部において、入学直後よりも現在の方が意欲が下回っていることがわかります。特に薬学部や工学部では「入学時積極的」が70%前後でやや高めですが、「現在意欲的」が40%程度と、入学直後に比べて大きくダウンしており、入学後は意欲的な態度を維持できなかった学生が多いようです。

一方で、医・歯学系の学部や芸術学部、理工学部はダウン幅が比較的小さく、「現在意欲的」な学生も5割を超えて相対的に高くなっています。特に医学部では、「入学時意欲的」も「現在意欲的」も14学部中トップとなっており、入学直後から現在に至るまで、意欲を維持できている学生が多いことが伺えます。

ただ、全体の平均では約20ポイントの低下となっており、学生の意欲を維持できるような対策が引き続き必要であると言えそうです。



※入学直後意欲的とは:「入学時に卒業後の進路等を意識」「多くの授業に出て好成績をとる」「今の学部に入って良かった」

「日本大学に入って良かった」の項目の%の平均値

※現在意欲的とは:入学後に「勉学意欲がもてるようになった」「将来について希望がもてるようになった」「自分に自信がもてるようになった」

「人間性が豊かになった」「着々と勉学の成果をあげていると思う」「創造性が養われた」の項目の%の平均値

経年変化

日本大学全体の経年変化を見ると、入学直後に意欲的な態度を示している学生（「入学直後意欲的」）は昭和63年の調査以来微増傾向にあると言えます。「現在意欲的」も平成15年度（項目は平成12年度からの調査）から上昇し、平成21年度は46.4%と過去最高となりました。2本の線がもっと接近するにはまだ時間と努力が求められると言えそうですが、近年の各学部での教育改革の積極的な取り組みが功を奏しており、成果が表れてきていると言えるでしょう。

3年前と比較して特に「現在意欲的」が上昇した学部は国際関係学部、理工学部、医学部でした。また薬学部以外の学部は平成15年度以降増加傾向にあり、今後の動向に注目できます。一方、唯一薬学部は平成12年度からずっと微減傾向であり、学部別で最も低くなっています。

